

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**福岡空港国際線旅客ターミナルビル**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.67	
1 開口部遮音性能						3.0	0.94	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.06	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.33	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.1</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.1</b>
2.1 室温制御						<b>3.3</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温						3.0	0.49	3.0	0.57	
2 外皮性能						3.0	0.17	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		4管式の採用。				4.0	0.34	-	-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.1</b>	0.25	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.1</b>
3.1 屋光利用						<b>3.1</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.30	
1 屋光率		一般的な事務室、共用部分として搭乗待合室を算出して按分				5.0	0.06	3.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 屋光利用設備						3.0	0.94	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.03	<b>1.0</b>	0.30	
1 屋光制御						3.0	1.00	<b>1.0</b>	1.00	
3.3 照度		事務室の照度を500Lx以上とした				<b>4.0</b>	0.01	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>1.0</b>	0.46	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.4</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.4</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>3.9</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量		居室の換気量は30m <sup>3</sup> /h・人とした				4.0	0.49	3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	0.03	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		臭気を伴う排気は給気位置と十分に離隔を取りショートサーキットの防止				4.0	0.49	3.0	0.33	
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.49	-	-	
2 喫煙の制御		健康増進法に則った換気量を計画				5.0	0.51	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	0.03	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.03	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.95	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>2.6</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						2.0	0.33	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						3.0	0.31	-	-	
3 内装計画						3.0	0.35	3.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		外装;金属部はメッキ処理、SUS素材を採用。汚れにくく処理を施す				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.8</b>	0.30	-	-	<b>3.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.8</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する				4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.8</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外・暗渠部のダクトはSUS。多湿ダクトはSUS又は塩ビラインダクト				5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		空調配管はSGP、給水配管はSGP-VA、排水管はVP				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		主要機器の大半は耐用年数20年				4.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>4.2</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		利用エネルギーの分散(電気、ガス)、災害時に必要な空調を個別化。				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		受水槽の分割、中水・雨水・井水利用、緊急排水槽				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機の設置、重要負荷は変圧器2次側をバイパス回路とし				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAを採用				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.7</b>	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	増築部は階高3.9m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率が0.1を上回っている。	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井内に十分な高さがあり、仕上げを壊さなくても工事が可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井内に十分な高さがあり、仕上げを壊さなくても工事が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要機器はエネルギーセンターに集約。	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		別紙に記載	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		省エネ計算書を添付	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		トップライト設置	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.82	<b>2.9</b>	0.50	-	-	<b>2.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>5.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSの導入	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	BEMSデータによるコミッションング	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>4.1</b>	0.20	-	-	<b>4.1</b>
<b>1.1 節水</b>		節水器具の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>4.3</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水ろ過設備の設置	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水、厨房排水を処理して中水として再利用	5.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.9</b>	0.60	-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体+軽鉄+仕上げ材の組み合わせで内装壁を構成している	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.2</b>	0.20	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.3</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	窒素ガス消火設備	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		用途ごとの面積により算出	<b>4.5</b>	0.33	-	-	<b>4.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33	-	-	<b>2.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	雑排水、厨房排水を処理して中水として再利用	4.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ置場、ゴミ圧縮機の設置	3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	1.00	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	